２０２２年２月６日（顕現後第５主日、C年）牧師メッセージ

「宣教はみ言葉の上に」

（ルカによる福音書 5:1-11）

司祭ヨセフ太田信三

「網を降ろしなさい」と言われた漁師たちは、「まったくこの偉い先生は何を言っているのか。」と思ったかもしれません。経験によって漁をよく知っている漁師たちにしてみれば、太陽が昇った今頃に網を降ろしたって魚が獲れるはずがないのです。しかし、彼らのなかでシモン・ペトロだけは「お言葉ですから、網を降ろしてみましょう。」と言います。ここの一連のペトロのセリフを直訳すると「先生、夜通し苦労してもわたしたちは何ひとつ獲れませんでした。しかし、あなたの言葉の上に、網をわたしは降ろしましょう」となります。「わたしたち」つまり、漁師たちの常識から言えば、網を降ろしても無駄です。しかしペトロは、「わたし」はあなたの言葉を信じて網を降ろしますと言うのです。結果、皆で力を合わせなければ揚げられ無いほど網には大量の魚がかかりました。

主イエスの言葉の働きを経験したペトロは、「わたしたから離れてください。わたしは罪人なのです。」と罪を告白します。主イエスの言葉の働きに与り、恵みを受けた者は、自然と罪を告白することができる者へと変えられるのです。ペトロの目にしたことは、彼に自分の「罪深さ」を感じさせるほどに神々しいことでした。このペトロに主イエスは「恐れるな」と語りかけ、罪については触れもせず、それどころか「今から、あなたは人間をとる漁師になる」と言って使命を与えます。

「舟」はよく教会の象徴とされます。今日の福音によれば、教会とは主イエスの言葉が語られ、主イエスの言葉の働きが実現するところです。教会共同体が、経験や常識に立つのではなく、ペトロのように神の言葉の上に立つのなら、その共同体はみ言葉の力を目の当たりにし、大漁の如き恵みに与り、それゆえに罪を告白できる集団とされます。主イエスはその集団に、「人間をとる」使命をお与えになります。ここで「とる」と訳されている言葉は、「生かすために捕まえる」という意味を含みます。クリスチャンは人をまことに生かすために捕らえる使命を与えられているのです。この使命こそ宣教と言われるものです。宣教は、経験や常識に立つのではなく、主イエスの「言葉の上に」に立ってこそ実りが与えられるのです。